

事務事業評価表 平成24年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 市街地整備の充実
 基本事業 安全で憩える公園の整備

事業名 **公園管理事業**

[0314]

部名	建設部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	都市建設課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 公園 緑地
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 施設の維持管理・管理運営を適切に行い、快適で安心して憩える公園 緑地にする。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 施設の管理運営を指定管理者に委任する。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	公園緑地数	箇所	228	228	228	228
対象指標2						
活動指標1	指定管理委託料	千円	137,196	136,029	136,407	136,472
活動指標2						
成果指標1	不具合件数	件	0	0	0	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	186,480	179,397	177,929	177,967
正職員人件費 (B)		千円	4,979	5,239	7,223	6,474
総事業費 (A) + (B)		千円	191,459	184,636	185,152	184,441

費用内訳	
23年度	需用費 12,488千円、役務費 124千円、委託料 152,548千円、工事請負費 12,769千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	市民の公園管理に関する質的要求は高く、厳しい財政状況の下、従来の公園管理の方法では、限界にきている。 今後ますます時代にマッチした市民と行政の役割分担が求められる。
--------	--	-------------	---

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

都市公園法第二條の三(都市公園の管理)都市公園の管理は、地方公共団体の設置に係る都市公園にあつては当該地方公共団体が行う

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

本事務事業の実施は、公園緑地の持つ、安全、安心、やすらぎといった効用を発揮させ、市民に憩いの場を提供することとなり、公園の満足度と言った基本事業の成果に寄与し、基本事業への貢献は大である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

現在の維持管理費を保つことである程度成果を維持出来ると考えるが、老朽化による遊具修繕が増加しているため、コストは増加していくものと思われる。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

公園維持管理等への市民協働(アダプト)が充実できれば向上の余地は中位と言える。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある
 ない

理由・
 根拠は？

効率的な維持管理を行っているため、これ以上のコスト削減は難しい。